



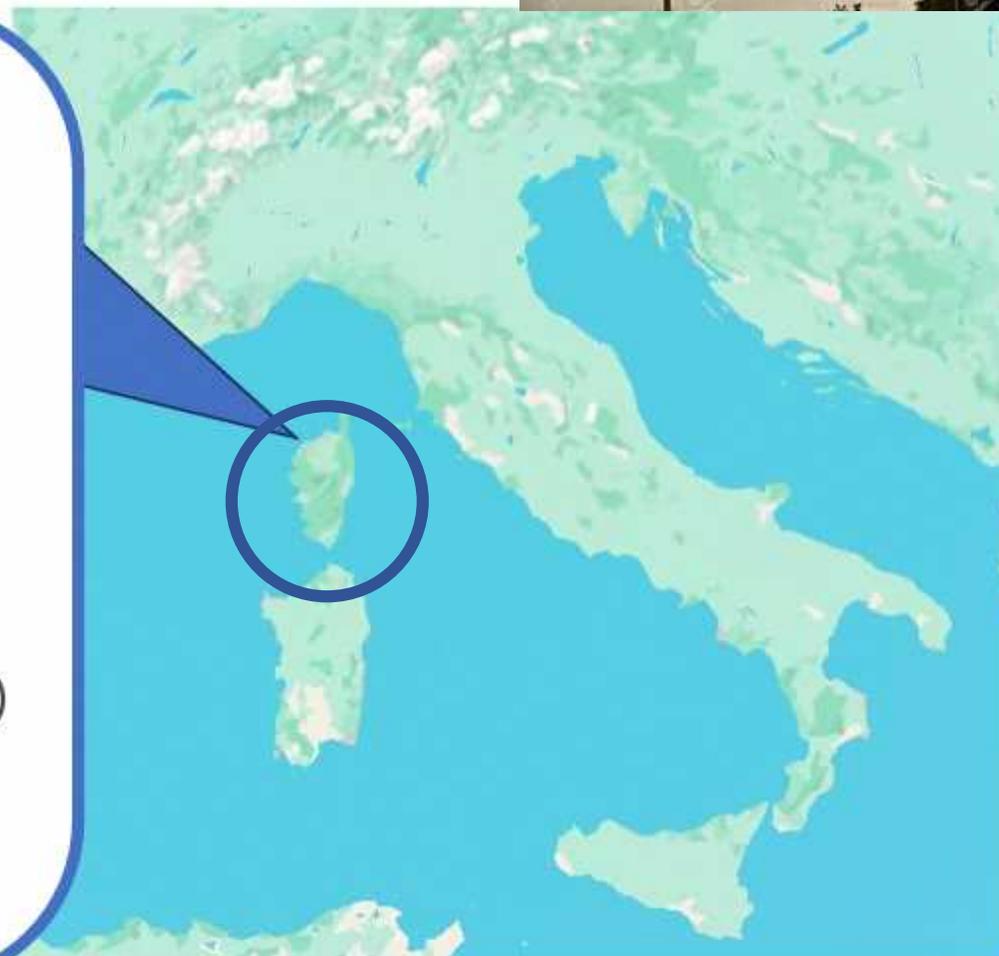
La Corse

コルシカ島 (フランス領)



- イタリア半島西に位置する島。
面積…約8,700 km² (兵庫県と同程度)
- 人口…約26万人 (兵庫県…約550万人)
- 主要産業…観光、農業、畜産業。
年間約200万人の観光客が訪れる観光地
- 「ポルト湾：ピアナのカルンケ、ジロラータ湾、
スカンドーラ自然保護区」が世界遺産登録。(1983年)
- ナポレオン・ボナパルトの生誕地

フランスで最も
早く世界遺産に
登録。



コルシカ島と栗

コルシカはフランスの一部でありながら、その地理的な独立性と歴史的背景から、独自の文化とアイデンティティーを持つ特別な島。

栗は「**パンの木**」として知られるほど、かつてはコルシカの主食の一部。コルシカの歴史を象徴する存在。栗を使った伝統料理やお菓子も多く、**栗のケーキ**や**栗のハチミツ**などが特産品として人気。

栗の栽培はかつて島の重要な産業。近年では農業の主要産業としての規模は減少しているものの、**コルシカ産の栗**や**栗製品**は依然として高品質な特産品として国内外で評価されている。



栗=コルシカ人 / 島のアイデンティティ

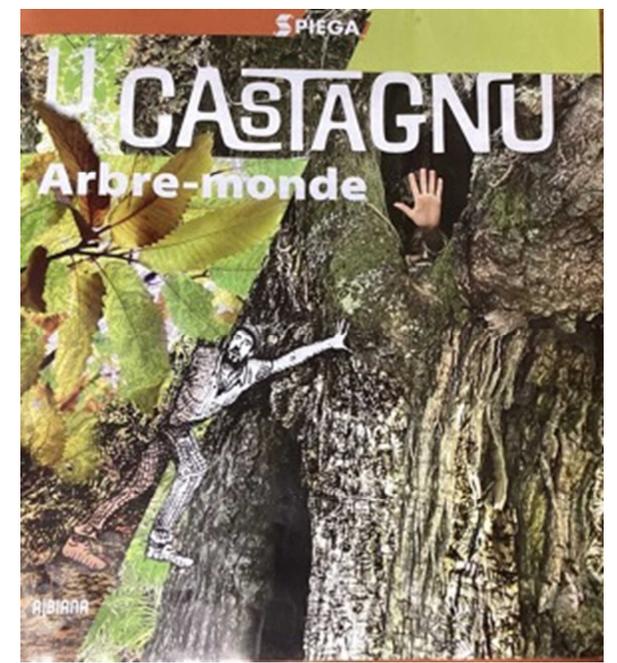
コルシカの栗は数百万年前の地質痕跡を持ち、ピサの技術導入とジェノバの政策により16世紀に発展。

住民は穀物を輸入せず自給自足を築き、約5世紀にわたり「**パンの木**」として社会・経済・文化の核を担い、**独立精神の象徴**となった。

1769年のフランス支配以降、「栗は進歩を妨げる」と批判され産業は衰退。さらに世界恐慌、戦争、都市化が追い打ちをかけたが、20世紀に入り「A Rustaghja」協会が伝統栽培を復活・改善。

現在も森林や気候変動の課題を抱えながら、栗の文化的・経済的価値は再評価され、化粧品や出版など新たな分野へ広がっている。

いまも栗は、歴史と誇りを受け継ぐコルシカの魂そのものであり、**島民のアイデンティティを象徴**している。



栗の木 世界樹

『U Castagnu : Arbre-Monde』

著者：Vannina Bernard-Leoni

コルシカ大学ヴァニナ先生がまとめたコルシカの栗に関する研究誌



栗の木は島の人々の想像力や感性をも育み、詩・文学・芸術など多くの文化作品に登場してきた。コルシカの自然と文化が融合した独自の世界観が、島の魂そのものとして描かれ、映し出されている。

伝統栗祭り/見本市 (A Fiera di a Castagna)



Achille Martinetti氏
栗祭りの共同創設者
ボコニャノ村長

栗の木は、病気克服や移住の歴史、国際協力を通じて人々を結びつけてきた存在であり、今日では地域の再生と文化継承の象徴となっている。

ボコニャノ村で開催 栗祭り(A Fiera di a Castagna)

・栗という地域資源を起点に、伝統製品の認知向上と地域再生を目的に1970年代後半に誕生した。毎年、栗を中心とした地元食材の販売・栗粉のコンテストなどを行う。※2025年は12月5～7日開催予定



和栗協議会 コルシカ島訪問 2025

ダイジェスト

📍 Day 1 2025.9.30 (火)

- ① アジャクシオ (アジャクシオ市庁舎)
- ③ ボコニャノ村 (ボコニャノ市庁舎・栗林訪問)

📍 Day 2 2025.10.1 (水)

- ③ ボコニャノ村 (栗工場・ナポレオン宮殿・アクエリアス工房・JAM)
- ② ミラ工科大学訪問
- ⑤ コルテ (コルシカ博物館・コルテ大学)

📍 Day 3 2025.10.2 (木)

- ⑥ ニオル・GAECサティヴァ (栗林訪問)
- ⑦~⑨ バスティア (アイスクリーム工場・ビール工場・マロングラッセ工場)
- ⑩ グランド・ホテル・カラ・ロッサ



📍 Day 4 2025.10.3 (金)

- ⑪ 柑橘系・栗関係のコスメ・研究所
- ⑬ ポルト=ベッキオ

📍 Day 5 2025.10.4 (土)

- ⑮ アルタ・ロッカ山脈





ミラ工科大学訪問
Ecole d'ingénieurs Mirà



Assemblée de Corse

コルシカ議会訪問



アジャクシオ市庁舎訪問
Mairie d'Ajaccio



ジャン=フェリックス・アクアヴィヴァ氏
Jean-Félix Acquaviva



コルシカ大学訪問
Université de Corse



Châtaigneraie GAEC Sativa
サティバ栗林訪問



Mairie de Bocognano
ボコニャーノ市庁舎訪問



コルシカの主要人物たちとの会合



シモーヌ・ゲリーニ氏

アジャクシオ市 文化・遺産担当副市長

パレ・フェッシュ美術館文化事業企画 文化施設安全委員会管轄

教育者・文化人・政治家として生涯を通じて文化と公共サービスの発展に尽力してきた人物である。幼少期をアフリカやタヒチで過ごし、帰国後に教職を経て、商業活動や広報職を経験。1990年代にコルシカ島に帰郷し、地方議会議員や文化・遺産・映像部門を担当する行政職に就任。現在は文化施設や市民アクセス拡充など、アジャクシオの文化振興政策を推進している。



マリー=アントワネット・モーペルテュイ氏

コルシカ議会議長

コルシカ州議会議長 兼 経済学者・政治家。ブリュッセルで国際金融を学び、アジャクシオ大学で経済学教授として勤務。2015年にジル・シメオニ氏のリストから州議会議員に選出され、執行評議会で欧州・国際関係や観光政策を担当。2021年7月、同議会の議長に就任し、地域発展と社会科学の推進に尽力している。コルシカ議会初の女性議長。



ジャン=フェリックス・アクアヴィヴァ氏

ユビキタ協会メンバー / 政治家

コルシカ島バステリア出身のフランスの政治家。2008年から2017年までロッツィ市長を務め、2016～2017年にコルシカ交通局長を歴任。2017年に下院議員（コルシカ県第2選挙区）に初当選し、2022年に再選。2024年6月の任期満了まで議員を務めた。地域主義政党「Femu a Corsica」に所属し、コルシカ自治と地域振興を掲げる政治活動「Pe a Corsica」の主要メンバーとして知られる。また、フランス政府組織「ユビキタ協会」No2の顔をもつ。コルシカ文化およびコルシカとのつながりを促進する編集コンテンツの作成と普及に務める。アイデンティティ、言語、慣習、思想、場所の混成と相互肥沃化、特にイベントの開催を通じて、コルシカ文化の普及に努める。

コルシカ島の栗加工について

マロングラッセ製造工場 【Dolci Corsi】

秋にコルシカ島で収穫された栗を使用して、マロングラッセを生産する工場。コルシカ島ではマロングラッセはクリスマス時期のみに流通し、販売されるものの95%はコルシカ島内で消費されている。



アイスクリーム工場 【RAUGI】

3代にわたる家族経営の手作りアイスクリーム専門店。自然でコルシカ産の素材にこだわり、厳選している。クリスマスシーズンのアイスケーキやキャスタニッチャという伝統的なドーナツに栗が使用されている。



ビール工場 【Pietra】

ワイン文化のコルシカ島に初めてビールブランドとして創業し、島にビールを浸透させた第一人者。コルシカ産の栗とオリジナル酵母やハーブなどとブレンドし、栗のビールを作っている



受け継がれるコルシカ島の栗産業



コルシカ島視察メディア取材

ラジオ1社、テレビ2社、新聞1社、ネットメディア各社など

コルシカ新聞 (corse matin)
2025/09/28(日)掲載

コルシカ新聞 (corse matin)
2025/10/03(金)掲載



テレビ取材：Tele Paese
2025/10/09(木)公開



仏映像制作会社
Novità
Production スタ
ジオによる
栗料理動画
(和栗ペースト
使用) 制作中



ラジオici

コルシカ学校訪問① MIRA ロボット&コンピューターエンジニアリングスクール



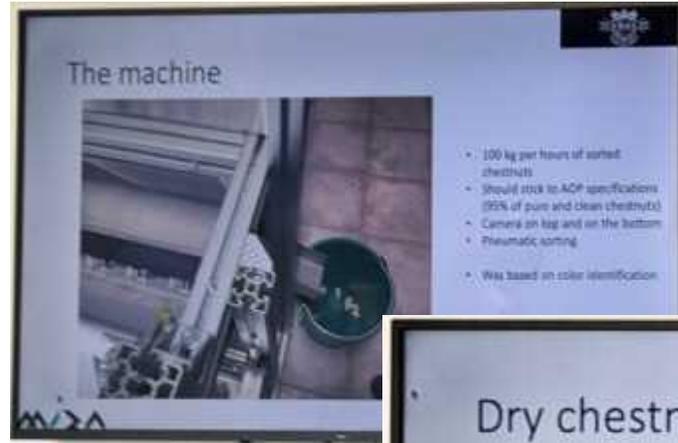
 Mediterranean Institute of
Robotics and Automation

**ROBOTICS AND
COMPUTER
ENGINEERING
SCHOOL**



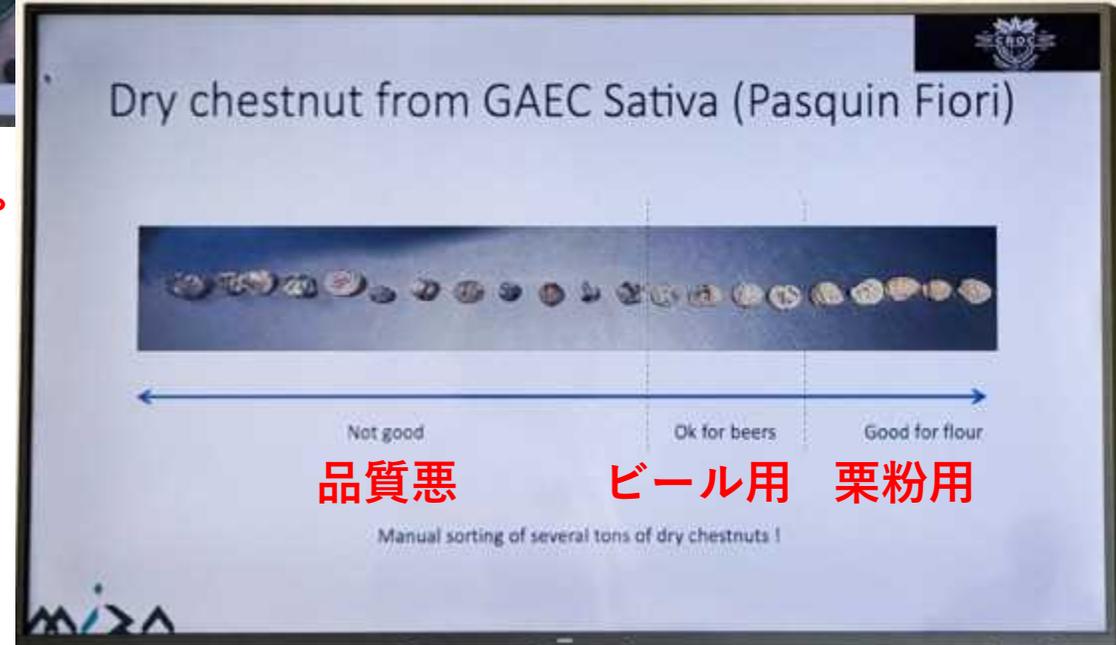
コルシカ学校訪問① MIRA ロボット&コンピューターエンジニアリングスクール

乾燥栗の光学選別（光学センサーで仕分ける工程）の研究



👉 独自マシンを開発し、
光学センサーで乾燥栗品質チェック

判定後👉



- 乾燥栗を光学センサーで判定し、品質をチェック
- 研究に使用されたすべての栗は海拔1044メートルに位置し、島で最も高い山の直下にあるGAEC Sativaから採取
- ピスタチオの事前学習済み深層学習モデルを使用

コルシカ学校訪問② コルシカ大学（設立1765年）

アグリレジリエンツァ(農業レジリエンス（回復力）)プロジェクト

目的：コルシカ島の栗資源の価値を高め、地域の持続可能な発展を促進（2021-2027年）

プロジェクトの2大指針



① 地域イノベーション (Innovation Territoriale)

目標：栗資源そのものの持続可能性を確保。

重点領域：栗栽培 (castanéiculture) と家畜飼育 (élevages) の共存モデル。

活動内容：

- ・ 実験サイトの運営
- ・ 地域ネットワークの形成
- ・ 政策提言・地域政策の実践

調査データ (2021年 INRAE・ODARC)：

AOP「Farina di Corsica」認定の栗農家の**64%が家畜飼育も兼業**している。

② オープンイノベーション (Innovation ouverte)

目標：栗産業全体（加工・流通・ブランド）の持続可能性を強化。

中心ブランド：「Farina Castagnina Corsa（コルシカ栗粉）」

活動内容：

- ・ 製品・製造プロセス・組織のイノベーション
- ・ ハッカソンなどの共創型活動

成果目標：

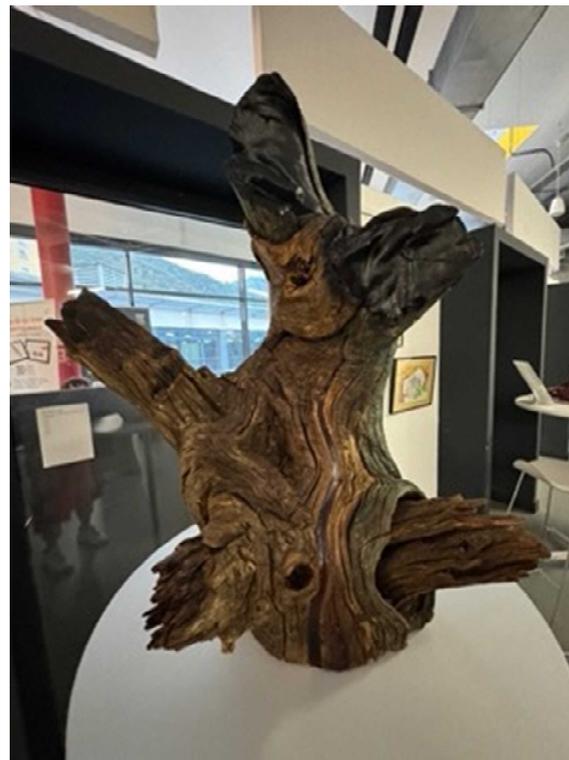
栗粉生産量は2010年の**110トン** → **2024年には55トン**へと減少 → この減少傾向を食い止め、持続的発展の仕組みを構築

コルシカ学校訪問② コルシカ大学（設立1765年）

アートと科学の対話の重要性



栗の木と地域社会の間に広がる距離を、**アートと科学の対話** によって縮め、栗林の「第二の再生」に向けて**研究者とアーティストが共に紡ぐ新しい物語** をランドスケープデザイナーのオラン・セルジャンが提唱。コルシカ大学では、アーティストの栗にまつわる作品も展示されていた。



まとめ：食から学ぶアイデンティティ（コルシカの教え）

🍎 コルシカからの学び

- ・ 栗はコルシカ人のアイデンティティの象徴。
- ・ 歴史・文化・自然・アート・科学が一体となり、「栗粉」や「ビール」などへ再利用し、資源を余さず活かす文化を形成。
- ・ 農家だけでなく、アカデミア（MIRA）、地元企業、アーティスト、が連携し、栗を軸に地域と心のつながりを再生させている。

🍎 日本への示唆

- ・ 栗は縄文時代から日本人のDNAに刻まれた食文化。
- ・ コルシカのように、私たちも「栗」を通して、一次産業と文化、科学とアート、地域と世界をつなぐ新しい共創のかたちを生み出せないか？



**食はアイデンティティ。
栗を通して、「自分たちは何者か」を再び語り、
未来を耕す力を取り戻そう。**